

わが

日本で一番住みたいまち塩竈を目指して

はじめに

宮城県のはば中央に位置する塩竈市は、松島湾に浮かぶ浦戸諸島を除けばわずか4km四方という小さなまちです。しかしその歴史はともかく、奈良時代に国府多賀城の港として開かれ、伊達政宗など、各時代の権力者の保護を受けながら、鹽竈神社の門前町、東北有数の港町としてにぎわってきました。

特に明治以降は、早期の鉄道開通と港湾整備により港湾都市として、戦後は東洋一といわれた魚市場の水揚げでにぎわう水産物の一大供給基地として発展してきました。

食を生かしたにぎわいと活力あるまちづくり

国内有数の生マグロの水揚げを

して天然記念物である「塩竈桜」を贈ることになりました。現在この塩釜港に緑地護岸を整備中です。歌枕の地・塩竈にふさわしい修景を計画しています。

15分交通体系の確立

本市は、狭い市域に5万8000人が居住し、東北・北海道では人口密度が最も高いまちです。この狭い市域に4つの駅があり、仙台とは20分ほどで結ばれています。このコンパクトさと利便性を生かし、市内どこからでも15分以内に鉄道駅へ行くことができる15分交



まさに平安絵巻の「塩竈みなと祭」

誇る塩竈市魚市場には、秋口からメバチマグロが水揚げされます。厳選したものを「三陸塩竈ひがし」のブランドで全国に出荷しています。

また首都圏や仙台圏からのお客さまで行列ができる「寿司のまち」であり、かまぼこなど水産加工練製品の生産も全国一を誇ります。さらに門前町として栄えてきたことから、伝統ある銘酒や銘菓もあり、名実ともに「食のまち」です。

「みやぎ寿司海道」や「おいしおがま食べ歩き」などのイベントも実施しており、新たに首都圏でもプロモーションを展開し、「食のまち塩竈」の情報発信をしています。また水産加工の新商品開発や浅海漁業産品のブランド化なども進め、食のまちの魅力をさらに磨き上げていきます。

「鹽竈海道」を軸とした回遊空間の形成

「道そのものが博物館」として整備を進めてきた「鹽竈海道」が今秋完成します。歩道には「伊勢物語」や「奥の細道」など、塩竈ゆかりの文学作品や、紫式部をはじめとする都人100人が詠った「鹽竈百人一首」が曲水に沿って展示され、幻想的な「石灯り」は夜の街並みを演出します。

また本市中心部にあり、本塩釜駅に隣接する貨物ヤード跡地を、食住・商をキーワードにした「海辺の賑わい地区」として整備を進めています。この取り組みにより大型商業施設の中心部回帰が実現しました。また、遊覧船のターミナルまでの遊歩道や海辺のマンションなども完成し、駅前広場や建物の共同化など、本市の新たな顔とな

る中心市街地の再生が進んでいます。この「鹽竈海道」と「海辺の賑わい地区」が、鹽竈神社と中心商店街、観光桟橋を結ぶことから、交流人口の拡大につながる回遊軸となることを期待しています。

光源氏が愛でた「千賀ノ浦」の再生

嵯峨天皇の皇子で光源氏のモデルともいわれる源融公。風光明媚な塩竈の地をこよなく愛し、平安初期の京の六条に、千賀ノ浦(塩釜湾)を模した大庭園を築いたことから、塩竈は都人あこがれの歌枕の地となりました。また、この大庭園は日本庭園のルーツとも、光源氏の邸宅のモデルともいわれています。

本年3月、京都市下京区130周年記念としてシンポジウム「源融が結ぶ塩竈の縁」が開催され、私もパネラーとしてお招きいただき、下京区の皆さんと1000年の時を超えた交流を共にし、記念樹と

通体系を実現しています。

まず、平成16年から運行を開始した「しおナビ100円バス」は、1時間1便ですが市内の4駅を循環し、1日1000人の利用客があります。また昨秋より路線バス空白地区で試験運行を開始した「NEWしおナビ100円バス」も、ほぼ満席で走り回っています。この取り組みにより、市内のほぼ全域が、歩いて5分ほどで路線バスに乗れるようになりました。高齢者の買い物や通院の支援、バス通勤への回帰を促しており、エコにもつながっています。

「のびのび塩竈っ子」に会えるまちづくり

子どもは、私たちに感動と喜びを与えてくれるとともに、まちの未来を担うかけがえのない存在です。本市では、親が安心して子どもを産み育て、子どもたちが伸び伸びと健やかに育つよう、地域社会が子育てを支えるまちづくりを進めています。

まず母子の健康増進のため妊婦検診の助成を14回に拡大し、経済的負担軽減のため乳幼児の外来医療費助成を小学校就学時まで引き

上げました。また子育てママのリフレッシュのため、一時保育の一部無料化や、放課後児童クラブの指導員を増やしています。そして、地域に根差した幅広い市民の参加と協力によって「塩竈っ子」の光り輝く笑顔に会えるまちにしています。

「塩竈力」の発掘 日本で一番住みたいまちへ

「足下に泉あり」。旧来の物事に

プロフィール

- ◆ 面積 17.86km²(島部3.70km²)
- ◆ 人口 5万8092人
- ◆ 世帯数 2万2072世帯

〔将来都市像〕

海・食・人が活きるまち

〔まちの特徴〕人口密度東北・北海道一、特定重要港湾、鹽竈神社の門前町、魚のまち、寿司のまち

〔特産品〕生メバチマグロ(三陸塩竈ひがしもの)、水産加工練製品(かまぼこ)



塩竈市長 佐藤 昭



〔観光〕鹽竈神社、御釜神社、鹽竈海道、塩釜水産物卸市場、浦戸諸島(松島湾)

〔イベント〕塩竈みなと祭、鹽竈神社帆手祭・花まつり、おいしおがま食べ歩き、しおがまさま神々の花灯り・月灯り、塩竈の醍醐味

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「活き活きじょうそう」を目指して、市民協働を柱にまちづくりを推進

はじめに

常総市は、茨城県の南西部に位置する水と緑に恵まれた田園都市です。鬼怒川と小貝川に挟まれた東部地域は、水田が続く豊かな穀倉地帯となっています。一方、洪積台地からなる西部地域は、畑地や平地林が広がるほか、白鳥の飛来地で知られる菅生沼などの豊かな自然にも恵まれています。またこの地域には、首都近郊の利便性を生かし、工業団地が複数立地するなど、本市の産業拠点にもなっています。交通の面でも、常磐自動車道やつくばエクスプレスに近く、平成24年には圏央道のインターチェンジが本市内に設置されることで、首都55km圏内の恵まれた立地条件から、今後ますます発展が期待されているところです。

市民協働に向けた新たな取り組み

本市は、平成18年1月に水海道市と石下町が合併し、新たに常総市としてのスタートを切りました。その後、常総市総合計画を策定、「健やかに ひとを育み みどり豊かなまちづくり じょうそう」を市の将来像と定め、市が直面しているさまざまな課題の解消を市民と共に図りながら、将来に向けた新しいまちづくりを目指しています。ここでその幾つかの取り組みをご紹介します。

市民協議会の開催

市民協議会とは、従来の審議会や市民委員会と違い、無作為に選ばれた市民がまちづくりの課題を討議して行政に反映させるという

もので、現在全国の自治体に広がりつつある手法です。

本市でも、市民参加のまちづくりを進める新しい試みとして、平成20年度から（社）水海道青年会議所との共催で実施しましたが、全国初の試みとして、実行委員や討議テーマも一般市民から公募する形を採りました。

住民基本台帳から無作為抽出した1300人の市民に参加を依頼したところ、多数の申し込みを頂き、抽選で30名を選出して行われました。18歳から74歳まで幅広い年齢層の方々が集まり、「高齢者が元気で自立したまちになるためには」をテーマに議論を重ね、後日、結果を報告書としてまとめました。

本市では、本年度以降もこの討議会を継続して実施し、市民からの提言を積極的に施策に反映して

いきたいと考えており、本年度は、水海道青年会議所に加え、市民団体である常総元氣塾も参加して、議論が重ねられることになっていきます。

じょうそう井戸端会議の開催

じょうそう井戸端会議は、市民の意見、提言などを幅広く市政に反映させ、開かれた市政の実現や市民参画による市民の目線に立ったまちづくりの推進を図る目的で、市長自らが公民館などに直接出向き、市民の皆さんと対話する形式で意見交換を行うものです。

本市が主催する住民説明会などと異なり、会場の確保から準備などすべてを、開催を申し込んだ団体の方が行います。また、参加人数も10〜30人までとし、市からも市長と書記1名だけの参加で、誰もが気兼ねなく発言できる雰囲気づくりに配慮しています。平成20年10月から実施に移し、本年6月末までに52回の開催がありました。



市民協議会からまちづくりについての報告書を受ける模様

参加者の方からは、「普段なかなか話す機会がない市長と直接会話ができる」と好評を得ています。

市民協働のまちづくり条例の制定

本市では、市民が市政に参加し、行政サイドと一緒にまちづくりを進める「市民と歩むまちづくり（まちづくり推進力の強化）」を施策の一つに掲げています。これを実際のまちづくりに反映させるため、「常総市市民協働のまちづくり推進条例」を制定しました。この条例制定に当たっては、「市民協働のまちづくり推進委員会」を設置しました

が、この委員会の委員は、一般市民の方であり、本市としては市民のみで条例を検討した、初の試みとなりました。

今後は、この条例に基づき、市民と行政が連携したまちづくりを展開し、魅力と活力のある地域社会の発展と新しい公共の創造に努めていくこととなります。

外国人の方への配慮

本市は、県内でもつくば市に次いで2番目に外国人登録者が多いまちとなっています。その数約5200人を数え、その大半をブラジル人が占めています。市内には、ブラジル人向けのスーパーや学校、教会、銀行などブラジル人が生活しやすい環境が整っています。そのため、外国人児童生徒が多い市内の3小中学校には、ポルトガル語ができる外国人指導補助員を配置し、教育面でのサポートも行っています。

当然、市役所にも各種の手続きを行うために大勢の外国人が訪れるのですが、大半は日本語が話せない方で、質問や説明が互いに理解し合えるまでに長時間を費やし、意思が伝わらないというケースが

数多く見られました。このような問題に対応するため、本市では本年度から市役所に通訳を配置し、外国人への対応が速やかに、円滑に進むように努めています。

おわりに

平成の大合併を経て、地方自治体は、地方分権や行財政改革の進展などを受け、新しい時代に対応

すべく努力をしております。しかしながら、今未曾有の経済不況にあって、厳しい財政運営に直面し、まちづくりを進める上でも一層の合理的、効率的な運営が求められています。他に誇れる特色あるまちづくりを進めるためにも、市民協働の力で知恵を絞り、力を合わせて住みよいまちを目指していきたいと考えております。

プロフィール

- ◆ 面積 123・52km²
- ◆ 人口 6万5793人
- ◆ 世帯数 2万834世帯

〔将来都市像〕 健やかに 人を育み みどり豊かな まちづくり じょうそう

〔まちの特徴〕 大小10の河川と菅生沼に代表される豊かな水辺と緑に恵まれた自然環境。首都近郊の恵まれた交通網を生かし、複数の工業団地が立地しながらも、近郊農業と調和する都市

〔市町村合併〕 平成18年1月、石下町



常総市長 長谷川典子



を編入合併し、水海道市から市名を常総市と変更

〔特産品〕 千姫釜飯、千姫どら焼き、せんべい、酒、だんご、いしげ結城紬

〔観光〕 水海道風土博物館「坂野家住宅」、水海道あすなろの里、長塚節の生家、弘経寺

〔イベント〕 水海道千姫まつり、常総きぬ川花火大会、一言主神社秋季例大祭、篠山木挽き唄全国大会、石下ふるさとまつり・かかしコンテスト、ふれあいなんでも一番さがし

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「伝統と創造、粋なまち桐生」の実現を目指して

はじめに

桐生市は、群馬県の東南部に位置し、東毛地域を構成する中核都市として豊かな自然と伝統のものが織りなす、ゆとりと潤いのあるまちづくりを展開しております。北は日光連山に連なる足尾山地につながり、市街地には渡良瀬川と桐生川の清流が流れ扇状地を形成し、人口集中地区になっております。また、平成17年6月には、勢多郡新里村と黒保根村との合併により、名峰赤城山の最高地点が市域となり、森林都市と水源都市もまちづくりの目標の一つとなっております。

本市の一つの顔は「織都」であり、古く奈良時代から養蚕業・絹織物業が発達し、桐生織の産地として「西の西陣、東の桐生」と並び称されてまいりました。江戸・天保年間には日本初のマニユファクチュアを導入し、明治・大正・昭和初期にかけて日本の基幹産業として発展し、外貨の獲得に貢献しました。現在も、製糸、捻糸、染織、縫製など、繊維に関するさまざまな技術が集積して残っており、この絹織物産業によってはぐくまれた高い技術が下地となり、パチンコ産業や自動車部品産業などで幾つもの優良企業が誕生しました。

次に、本市の顔の二つ目は「球都」です。平成11年夏の全国高等学校野球選手権大会において桐生第一高校が群馬県勢として初めて全国制覇を達成しましたが、同校は現在、春夏合わせて12回の甲子園出場を果たした名門校であり、プロ野球界にも多くの選手を輩出してまいりました。

ております。また、桐生高校は戦前から甲子園出場の常連校で古豪と称され、名将稲川監督の指導の下、春の選抜高等学校野球大会で準優勝2回、通算出場も26回を数え、多くの名選手と優れた指導者を輩出し、日本の野球界に貢献しております。

桐生市新生総合計画のスタート

合併した新里地区と黒保根地区との一体的なまちづくりを推進するため、平成20年度に新たなまちづくりの指針として「桐生市新生総合計画」を策定しました。

この計画では、まちづくりの基本テーマを「信頼、責任、積極性」とし、桐生・新里・黒保根の3地区すべての市民が、信頼の強いきずなで結ばれ、市民一人一人が責



森林浴の森百選、水源の森百選にも選ばれている桐生川源流林

に近年、急激に少子・高齢化が進み、徐々に社会経済活動や社会保障制度などへの影響が顕在化し、今後も同様な傾向が続くと予測されます。そこで、このような状況に対処するため、市民の総力の結集による「市民が主役のまちづくり」を基本として重点施策を定め、優先的に取り組むことにしました。

市民が主役のまちづくり

本年度の重点施策は、「子育て支援」による子どもを産み育てる環境の充実、「元気なまちづくり」による活力とにぎわいのあるまちづくりの推進、「安全・安心なまちづく

り」による安全で安心して住めるまちづくりの推進、「市民との協働」による市民とのパートナーシップの充実の4施策を柱とし、予算を編成いたしました。

これらの施策の中で、桐生地域の特徴ある事例としては、一つは本市の本町一、二丁目地区に残る江戸末期から昭和初期に至る、蔵造りや町屋、のこぎり屋根工場などの歴史的建造物と桐生新町が創設された約400年前の都市計画である「町割り」を地域の歴史や文化を伝える町並みと一体として保存するため、文化財保護法に基づく「重要伝統的建造物群保存地区」の指定を目指して、地域住民と連携を図りながら取り組んでおります。



市内に200軒以上点在する「のこぎり屋根工場」

平成20年度には、東京大学と長岡造形大学の協力により、歴史遺産の調査を実施し、9月市議会において「伝統的建造物群保存地区条例」を制定いたしました。また、本年度は7月1日から、本町一丁目地区に「伝建まちなか交流館」を設置し、伝建群制度の説明や保存計画に関する相談受付などを実施しております。今後は、こうした地域の財産を活用した広域的観光ルートの構築を図り、地域の活性化につな

げていきたいと考えております。

次に、本市には群馬大学工学部があり、同大学は、大正4年に桐生高等染織学校として誕生しその後、桐生高等工業学校、桐生工業専門学校と変遷し、昭和24年に群馬大学として発足して今日に至っております。このような経緯から、群馬大学を核とした元気で活力あるまちを実現するため、「まちの中に大学があり、大学の中にまちがある」推進協議会の活動をはじめ、

経済産業省が推進する産業クラスター計画との連携の下、「北関東産官学研究会」の活動支援を中心に、新技術の開発や新産業の育成を目指し、群馬大学との産学共同研究に対する助成や中小企業支援、ベンチャー企業の育成に取り組んでおります。

桐生のまちには今も、伝統のものがけりと粋の文化が息づき、皆さまのお出掛けをお待ちしております。

プロフィール

- ◆ 面積 274・57km²
- ◆ 人口 12万7002人
- ◆ 世帯数 5万66世帯

〔将来都市像〕 伝統と創造、粋なまち桐生

〔まちの特徴〕 渡良瀬川・桐生川の清流と豊かな緑に恵まれた、歴史と伝統が息づくまち

〔市町村合併〕 平成17年6月13日、新里村、黒保根村を編入合併



桐生市長 亀山豊文



〔特産品〕 桐生織、桐生うどん、ソースカツ丼、キノコ、キュウリ、ブドウ、アジサイ、豚肉

〔観光〕 桐生が岡遊園地・動物園、県立ぐんま昆虫の森、利平茶屋森林公園、わたらせ渓谷鐵道

〔イベント〕 桐生八木節まつり、にいさと新能、桐生ファッションウィーク、桐生市堀マラソン大会、桐生天満宮古民具骨董市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民協働のまちづくり推進を図る

私のマニフェスト 「人と自然に優しい瑞穂市づくり」事業

平成19年6月の就任からはや2年がたちました。この就任選挙のころ、いわゆる政策公約(マニフェスト)が選挙ビラという形で法的に解禁となり、市民の皆さんに契約のできる、まさに地方分権の幕開けともいえる画期的な選挙戦となり、その結果、市政のかじ取りの信託を受けました。

私のマニフェストである「人と自然に優しい瑞穂市づくり」に示した24の政策と瑞穂市総合計画をすり合わせ、一つ一つの事業を評価システムのマネジメントサイクル「立案(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Action)」を活用し、市民サービスの向上に努めています。この総合計画の基本計

画の柱と私のマニフェストをリンクさせた生活の基盤整備事業を確実に実行しています。

昨今は定着しつつありますが、このマニフェストには実施年度が明記されており、定例議会開会のたびに、また市のホームページにも進捗よく状況を示しています。これは、透明性、公平性のある行政推進を行いたいと考えているからです。

実施年度を示すことは、職員の理解・協力がなくては推進できません。職員の意見も取り上げ、議会とも十分に議論していく姿勢で取り組んでおります。

まずは私のマニフェストに示した事業に対して、「信念実行」の姿勢で取り組み、進捗よく状況を見ていただき、市民の皆さんからの信頼を得ることによって、まちづくりへの参加、協働への理解が得

られるものと考えています。

まちづくり基本条例の制定に向けて一人に優しく

本市の将来あるべき姿を示し、一人一人がふるさと瑞穂への誇りと愛着を持ち、住みよいまちづくりに参加してもらうための行動目標として市民憲章を制定しました。これに伴い、これを柱にさまざまな事業を展開することが可能となり、深い感慨に思いをはせているところです。

市民憲章の制定だけでは、市民協働のまちづくりには当然発展しないわけであり、具体的に市民の皆さんが主体となり、まちづくりに参画するための第一歩として、まちづくり基本条例の制定に取り組んでいます。市民の皆さんの意見を聴きながら、策定のプロセスそのものがまちづくり参加の場

あるという意識の下に進めていきたいと考えています。現在、庁舎内の職員によるまちづくり基本条例推進会議ワーキングチームにて素案を策定し、瑞穂市まちづくり基本条例推進会議に示して、市民の皆さんに検討していただき、まちづくりの協働作業を皆さんと共に進めたいと考えております。

既に多くの自治体では、まちづくり基本条例が策定され、本市が後発であることは認識しています。地理的な要因にて水害と闘い続けてきた長い歴史を振り返ると、まちの形成に時間がかかってきたことも事実です。かつての治水対策、道路整備重点の施策が功をなし、人口も増え、福祉・医療・教育・環境へのニーズが多くなってきた昨今、ソフト事業への民意を反映させていく仕組みが重要となります。

いわばまちづくり基本条例は、市民の皆さんと共につくっていく、まちを元気にするための実践的な、

より現実的なみんなのマニフェストです。基本条例の約束を守るようお互いが努力し合うことが、市民協働のまちづくりにつながるものと思います。

水と緑の回廊計画 桜の苗木植樹事業〜自然に優しく〜

人と自然に優しいまちづくり事業として、水と緑に恵まれた美しいまちづくりを目指し、水と緑の回廊計画を進めています。この計画の理念は、これまではごくくんできた自然を大切にしながら、さらにより多くの自然を後世に残そうというものです。

本市では、市内を一級河川が16本も貫流するという特徴を活かし、河川の公園整備・ポケットパークの充実を今までも実施してきました。この回廊計画は、市の木である「桜」を植樹して、市内の施設を桜の線でつないだ回廊を形成するものです。現在市内には、1300本の桜の木がありますが、3カ年で



伐採前の藍景堤の桜 (昭和8年当時)

2000本の植樹を計画し、平成20年度より実施しています。かつては、「藍景堤(らんけいてい)の桜」として中部地方随一の桜の名所であった糸貫川右岸の吉野桜3000本は満州事変後、戦争のため薪材として伐採されてしまいました。この幻の「藍景堤の桜」を再現しようと戦後植えられた桜が現在のものです。このように、市民には桜への愛着が大変深いものがあります。

また、地球温暖化対策として平

成25年度までに温室効果ガス排出量を削減することにおいても緑化事業は大切なことと認識しております。

子どもから大人まで、また、企業の参加も得られ、植樹した苗木を見守り育てていく、この手づくり事業は本市の大きな自然、心豊かな財産として誇れるものとなることを確信しているところです。

結びに

本市は、東海道本線穂積駅があ

プロフィール

- ◆ 面積 28・18 km²
- ◆ 人口 4万9203人
- ◆ 世帯数 1万7023世帯

〔将来都市像〕快適で住みよい、活力を生み出す創造都市
〔まちの特徴〕市内には16本の一級河川が北から南に向かって流れており、その面積も市全体の20%を占めている水に恵まれた環境です。



瑞穂市長 堀 孝正



〔特産品〕柿(富有柿)、バラ、サボテン
〔観光〕小簾紅園、伊久良河宮跡、興禅寺(川崎平右衛門の墓)、牛牧間門、中山道美江寺宿跡
〔イベント〕美江寺観世音のお蚕祭り、観音院の大ちようちん(千日参り)、和宮の例祭、桜まつり、美江寺宿場まつり、汽車まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

風格都市栗東の再構築を目指して

財政危機を乗り越えるために

栗東市は古くは街道として東海道・中山道、今日では国道1号・8号があり、また名神高速道路栗東ICの開通などにより交通の要衝として多くの産業系機能が立地するとともに、JR手原駅、JR栗東駅によって京都・大阪方面への通勤圏として大規模な住宅整備が進み、大きく発展してきました。人口減少が始まっている中で、2030年までは人口増加が続くと予想されている活気溢れるまちです。

また栗東といえば、日本中央競馬会栗東トレーニングセンターが所在する「競走馬のまち」として特に競馬ファンを中心に広く知られています。

加えて、不名誉に思っています。最近では「東海道新幹線新駅中止」と協働という形で共に役割と責任の自覚の下、情報を共有しながら力を合わせて進めていくことが非常に重要と考えます。

本市では既に地域住民が主体となり、それぞれの特色を生かしたさまざまなまちづくり事業を展開されていますが、この実績を基盤として整理し、基本的なルールとなる「栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例」を本年4月に

問題」が大きくマスコミで報じられたことにより、全国的に知られることになりました。

このことを少し述べますと、昭和63年に滋賀南部地域の持続的発展を図るため周辺市町(後に県も加入)による新駅設置促進協議会の設立以来新幹線新駅設置に向けての取り組みが実を結び、平成14年4月に新駅設置が正式に決定しました。以後、駅予定地周辺の区画整理事業に精力的に取り組み、平成18年5月には新駅工事の起工式を終えましたが、いよいよ着工という段階になって現滋賀県知事の思わぬ方針転換を受け、具体的な議論ができないまま平成19年10月末をもって駅を造るというJR東海との協定類が期限切れとなって中止となりました。

同時に新駅を前提に進めていた土地区画整理事業も存在意義を失

い、結局平成20年12月に当事業を取りやめることとしました。

これにより、地元関係者はじめ市民の皆さまの行政に対する不信が増大するとともに、本市土地開発公社が駅設置のために先行取得していた土地が利用目的を失った土地として信用力が著しく低下するなど「負の影響」は計り知れないものがありました。

このことが大きな要因となって市財政に致命的な打撃を与え、それがまたマスコミで取り上げられたことで一層市民にご心配を掛けざる事態となりました。

こうした状況をいち早く乗り越えて底力のある健全財政、安心安全で元気で住み良いまちづくりを取り戻すべく、早速「栗東市財政再構築プログラム案」を策定し、議会での検討、市内各所での市民説明の後、プログラム本案としました。

このプログラムは、セーフティネットを堅持しつつ「入るを量り、出ざるを制す」の精神で、収支均衡体質への財政構造の健全化に向け、本年度から本格的に実施しています。

参画と協働による市民主役のまちづくり

ところで、私は市長就任後、一貫して「官から民へ」を理念に、「まちづくりの主役は市民」「行政はサービス業」「行政に民間的・経営的感覚を」の3つを市政の基本方針として掲げ、「対話と協働」による市政を進めてきました。

地方分権の進展や都市間競争激化の今日、地方自治体は自己決定・自己責任の原則の下、自主自立の自治体運営が基本となります。そうした中で、複雑化する市民ニーズや地域社会の課題に行政だけで対応することは困難であり、これからのまちづくりはその主役たる市民をはじめ団体、事業者の参画

施行しました。

今後、この新条例の下でさらに市民と手を携えながら、より一層満足度の高いまちづくりを目指していきます。

「景観」にこだわったまちづくり

本市は、東海道・中山道の2つの街道が通過し、その沿道を中心に歴史や文化、古くからの町並みが残るとともに、市南部には全国森林浴の森100選に選ばれた金勝山系が広がる「緑と文化のまち」です。この豊かな自然、往時の街道文化をしのげる町並みといった、いわばまちの宝を次代に残していきたいという思いから、平成20年2月16日「景観行政団体」に移行するとともに、「百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画」「栗東市景観条例」を本年4月から施行しました。

現在、「栗東市街道百年ファンクラブ」によるネットワークづくりを基本に歴史街道を舞台としたさまざまなまちづくり活動の実践や、建築行為を行う際に、地域の景観特性や景観づくりの基本方針などについて話し合いを行う「風格づく



これからの景観づくりについて話し合う「堂々!! りっとう景観記念日」座談会



栗東市長 國松正一

プロフィール

- ◆ 面積 52・75km²
- ◆ 人口 6万4707人
- ◆ 世帯数 2万3796世帯

〔将来都市像〕夢と活力あふれるふれあい都市 栗東

〔まちの特徴〕北部には平坦な都市部が、南部には緑豊かな山地が広がる緑と文化のまち



- 〔特産品〕善光寺ういろう、イチジク、目川ひょうたん、蜂屋こんにゃく、栗東あられ、こんぜみそ
- 〔観光〕金勝山ハイキングコース、道の駅こんぜの里りっとう、狛坂磨崖仏、旧中和散本舗
- 〔イベント〕りっとう市民夏まつり、栗東森林のフェスティバル、東海道ほっこりまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

を語る 6

葛城市(奈良県)

葛城市長 山下和弥

悠久のロマンと次代の英知が織りなす爽快都市、葛城市

葛城市の概要

葛城市は、平成16年10月1日に、北葛城郡新庄町・當麻町が合併して誕生しました。

大和盆地の南西部、奈良県の北西部に位置し、西の二上山、岩橋山、葛城山の山並みから山麓地域にかけて豊かな自然環境に恵まれ、



毎年5月14日に二十五菩薩が練り歩く聖衆来迎練供養会式

東には国道24号線や鉄道の駅を中心に商業地、住宅地が広がります。いにしえには二上山より葛城山と呼ばれ、その東側、葛城川流域を含めた地域が葛城地方とされ本市はその中心に位置します。

市の中央には現在の竹内街道といえる南阪奈道路が通り、葛城インターチェンジにて国道165号線大和高田バイパスにつながり大阪府との重要な玄関口の一部になっています。

観光資源としては、當麻寺、柿本神社、笛吹神社、二上山、石光寺、竹内街道の歴史的文化遺産を中心として、市内各地に古墳時代の遺跡や古い神社仏閣が点在しています。

當麻寺の5月14日の二十五菩薩来迎会「當麻おねり」、正しくは、

聖衆来迎練供養会式(しようじゅらいごうねりくようえしき)といい、

恵心僧都源信が大衆を浄土信に導くために始めたもので、中将姫が生身のまま成仏した日に由来します。当日の午後、本堂を西方浄土に見立てて長い架け橋が渡され、極楽浄土から二十五菩薩に扮した人たちが、介添え役に付き添われて娑婆堂に進み、中将姫を蓮台に乗せて浄土へ導くというもので、来迎引接のさまを演劇的に表現したものです。

本市に初めてのマスケットキャラクター「中将姫蓮花ちゃん」誕生

新市ということもあり、本市の知名度は全国的には低いと言わざるを得ないのが現状です。そこで、本市を広く知ってもらおうと、こ



中将姫をイメージした本市公式マスケットキャラクター「蓮花ちゃん」

の「中将姫」をイメージした、マスケットキャラクターを作成しました。

来年、奈良県では「平城遷都1300年祭」が開催され、県内のさまざまな部門の方々が、多種多様な活動を展開されることになり、国民各層の多くの関心を集め、奈良県全体の活力・総合力を高めることとなります。

本市では、この国民各層が関心を寄せる「平城遷都1300年祭」のマスケットキャラクターで有名な「せんとくん」のガールフレンドという位置付けで、「中将姫」をイメージしたマスケットキャラクター「中将姫 蓮花ちゃん」を本市出身の漫画家、木下聡志氏の協力を頂き出現させ、「平城遷都1300年祭」をなお一層もり立て

ようにするものです。

「平城遷都1300年祭」に積極的に参加する本市としまして、このマスケットキャラクターは、単に観光都市葛城を全国にアピールするだけでなく、地域内にある地場産業のブランド化にも積極的に使用することにより、市民の協働意識と郷土愛を深めようとするものです。

新たな取り組み

「市民といっしょに新しいまちづくり」をビジョンに、本年度から市政について幅広い市民の意見を聴取し、また、市政に対する市民の理解を深めることを目的に「タウンミーティング」や、市長参加の「葛城市ふれあい集会」を実施しました。これらは、まちづくりに関する提言・要望、市民との対話を通し、市の行政運営の参考とするものです。また、以下の4つのビジョンをテーマにまちづくりに取り組めます。

- 「人づくりはまちづくり 子どもが笑う教育改革」
- 子どもを育てる親の視点で、働きながら子育てしている家庭をサポートするため、老朽化した市内

の公立保育所の建て替えを検討し、安心して子どもを預けられるよう一層の充実を図り、人員増加に対応するためにも、新たな学童保育所を新設し、働きながらの子育てを支援します。

「市役所を変える 変わります」

これは本年度から本市職員が民間企業においてその実務を経験することにより、職員の意識改革と職務能力の開発・向上を図るもので、これからの市行政施策や課題に対応できる人材育成を行うための民間企業などへの派遣研修を行います。また、市役所の仕事をすべて洗い直して、必要なもの、必要なもの、民間に任せるものなどに事業仕分けをしながら効率化を図ります。情報公開を徹底し、事業に優先順位を付け、無駄な事業をなくし、徹底した行財政改革を行い、公開すべきことはホームページなどで公開していきます。

「思い切った産業活性化と観光事業推進で観光都市宣言」

早くから露地ギクの生産地として知られる本市では、1本の茎に2輪ずつ咲く「二輪ギク」という品種の栽培が盛んで、その生産量は日本一を誇っています。地域の

人々の「ブランドを確立していききたい」という熱い思いから日本一の葛城ブランドの確立に向けて頑張っています。農業(酪農を含む)の活性化を図り、白キユウリ、ネギなどの野菜の栽培に力を入れ、都市近郊という地の利を生かしながら生計が成り立つ農業を目指し、地域地場産業を育成し、さらに葛城ブランドの確立を図っていきます。

プロフィール

- ◆面積 33.73km²
- ◆人口 3万6002人
- ◆世帯数 1万2730世帯

〔将来都市像〕悠久のロマンと次代の英知が織りなす爽快都市「葛城市」

〔まちの特徴〕古代の官道第1号である旧竹内街道を有し、国宝、重要文化財を包蔵し、中将姫ゆかりの當麻寺は、練供養やボタンの寺として有名。人麻呂ゆかりの柿本神社や重要文化財の博西神社などの名所・旧跡が点在し、古代葛城地域、白鳳文化の歴史・ロマンを秘めたまち。



葛城市長 山下和弥



- 〔市町村合併〕平成16年10月1日に、旧新庄町、旧當麻町が合併し、葛城市となる。
- 〔特産品〕ソーラーパネル、プラスチック製品、メリヤス製品、地酒、パルプ・紙製品
- 〔観光〕當麻寺、二上山、竹内街道、石光寺、柿本神社、葛城市相撲館、葛城市歴史博物館
- 〔イベント〕葛城市ぼたんまつり、岳のぼり、二十五菩薩お練り供養、葛城市納涼花火大会、けはやまつり、葛城市商工まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。